

63. 自然形態に巣くうコミュニティ

—これからの新しい働き方の提案—

1310920018 奥野和希
指導教員 藤井大地 教授

コミュニティ 技術革新 働き方 位相最適化

1. 設計趣旨

IT 技術の進歩により働く場所が縛られないテレワーカーが登場し、全労働者のうちの 2 割に達した現在、働き方の多様化と共に働き場所も選択出来るようになった。コワーキングスペースやシェアオフィスのような様々な職種の人が共同で利用する施設のニーズも高まりを見せ、従来のコールドオフィスの様な各企業ごとに隔てられた空間ではなく、ソフトとコミュニティを兼ね備えた、開放的で創造が掻き立てられるような空間が働き方や働くという体験に影響を与え、建築の価値を高めると考えられる。

以上の背景をふまえた上で働くことをシェアし、出会いや刺激のある、開放的なオフィスビルの提案を行う。



図 1 オフィスイメージ

2. 敷地概要

広島県広島市内のビルの立ち並ぶエリアの一面に計画する。このエリアは商業と住宅街の中間に位置し、ビジネスや地域交流など様々な可能性が出会う場であると考えられる。また、国道 2 号線沿いであるため、交通量や店舗が多く、アクセスもしやすい立地である。近くには商店街や市役所、公園や学校が点在しているため、様々な働き方の人に触れ合うことも見込まれる。

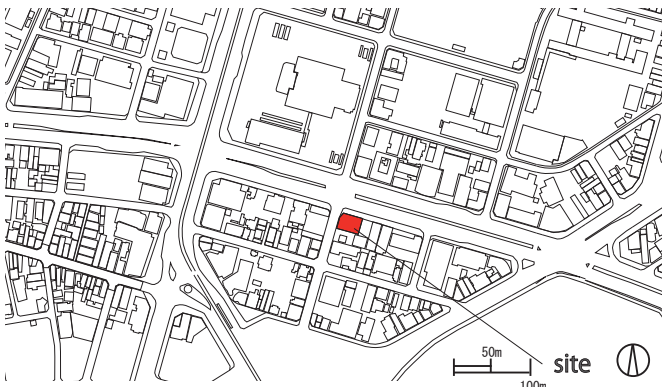
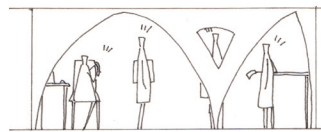


図 2 計画敷地

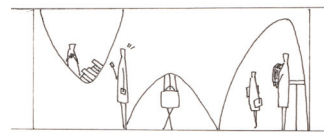
3. 設計方法

提案に基づいた設計をするにあたり、壁の取り払われた一室の大空間であり、オフィスビルのニーズに対応できる建築として、バイオメティクスデザインの様に形態が環境に適応し、合理的に決定を下すことの出来る、IESO 法を用いた建築構造の形態創生を行う。

一室大空間



今までにない空間



樹木のような柱



躯体以外の柱



4. 解析方法

設計に用いた IESO 法の解析方法は、まず、有限要素解析に必要なデータとして、設計領域の大きさ、分割数、ヤング係数、ポアソン比、境界条件、荷重条件を入力する。また、最適化計算に必要なデータとして、影響半径、残存要素数の下限値、除去率がある。そして、設計領域内に空間や固定スラブ等を設定する場合は、設計対象から除外する要素番号・密度情報 (0/1) を入力する必要がある。

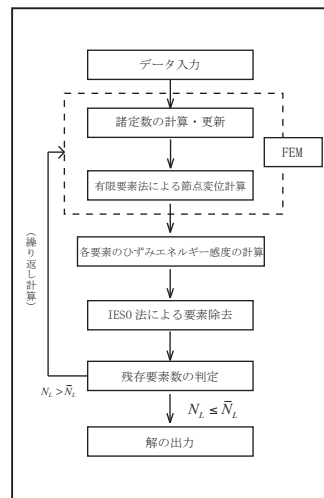


図 3 解析のフロー

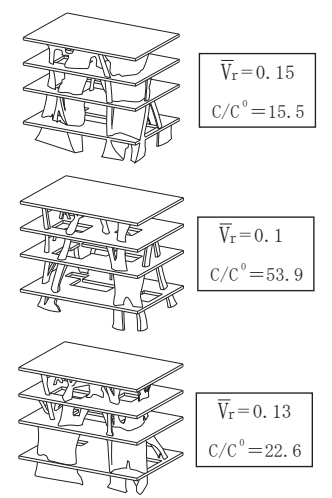


図 4 解析モデルデータ (一部)

New way of working from community —This which lodges itself in a natural form—

5. 建築内における活動の創出

(1) 建築内に多種多様な業種を組み込むことにより、複数の業種が触れ合う機会が増え、新たなビジョンを発見するきっかけを得ることが出来る。

(2) 働き場所に出会いや刺激がうまれるようにコワーキングスペースやシェアオフィス空間をのシステムとコミュニティスペースを兼ね備えた建築である。

(3) 異業種が集まり情報を共有することで新たなイノベーションが生み出されるよう、ビルマネージャーを設置し、コミュニケーションを促す。

(4) ビル全体で建築が収束するのではなく、地域の声を反映し、課題解決できるようなビルのシステムを構築する。

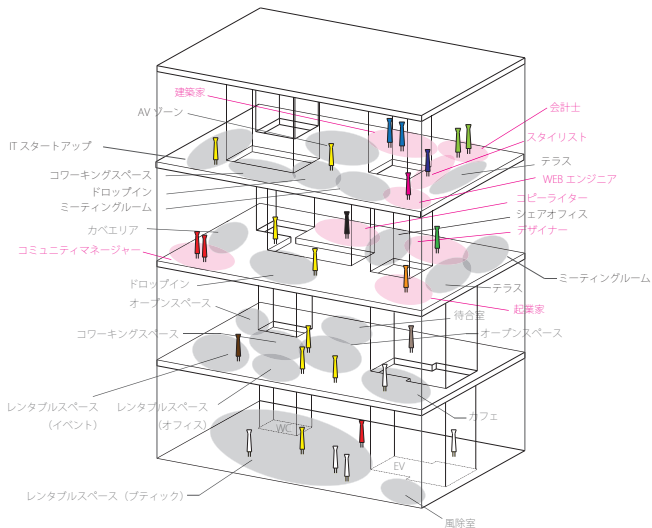


図5 オフィスレイアウト

6. 建築により得られる効果

本設計は働き方の移り変わりに考慮した、次世代のオフィスの提案を行った。当建築では以下の効果を得られると考えられる。

(1) 一室大空間を設計することにより、コミュニケーションがとりやすく、様々な人間が出会うことの可能な空間となった。

(2) 従来のオフィスビルにない、スケルトンの残余空間ができることにより、使用者の自由な発想による活用が出来る。

(3) 樹木の成長過程を切り取った様な形態は、そこから発展される未来を内包しているような外観である。

7. 総括

本設計は働き方の移り変わりを考慮した、次世代のオフィス空間の提案に基づいた設計を行うことにより、創造力を掻き立て、多様なコミュニティを生み出す場への発展が期待されるものとなった。また、その建築内で起きる効果は地域へと波及するものとなる。そこでは、以下の様な効果があることが考えられる。

(1) 人間が集まることで多様な人間の生き方・働き方に触れるため、自分の生き方・働き方について考える機会が増え、自分らしい生き方を見つけられるのではないか。



図6 自己分析

(2) アウトソーシングをもっと綿密にリアルな世界でできるようになり、これからの働き方を考えられることは非常に重要なことなのではないか。



図7 密接な交流

(3) 様々な声があげやすくなり、その声を拾いやすい環境が整うのではないか。



図8 意思表示

(4) 空間を自由に使えるため、他のクリエイターのものづくりにもふれる機会が増えるために心地いい緊張感も演出できるのではないか。



図9 外部の刺激

(5) ビル自体が小さな経済圏を形成し、そこで生まれたイノベーションが地域に還元され、地域課題の解決に踏み切ることが出来る。また、時代を先取る新しいアイデアが生まれる場であり、1つのビジネスモデルとして、汎用性の高いものであることが考えられるのではないか。

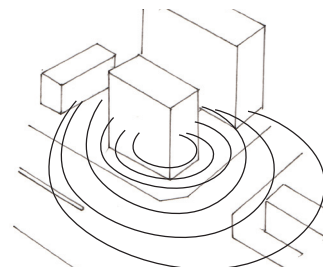


図10 地域への波及

以上により、本設計はこれからの働き方に即したオフィスの提案により、イノベーションが起きやすい社会の実現の可能性を高めるのであることがいえるだろう。